whenever wherever festival 2018 そかいはしゃくち

body arts laboratory

image｜Toshikatsu Kiuchi

そかいはしゃくち

松本力
佐々木文美
楠美奈生
桜井圭介

橋本匠
ハラサオリ
村上裕

内野儀
村社祐太朗
新聞家

山形育弘
神村恵
田中淳一郎
菊地敦子
田中真琴
佐藤駿 他

富永美保
山川陸
田村友一郎
木内俊克

*BAL*パフォーマンス・プログラム

石井則仁
三東瑠璃
Bhu Bhu

トチアキタイヨウ
いはらみく

山崎広太

期間｜2018年4月26日(木)—29日(日)
会場｜北千住BUoY

キュレーター｜福留麻里/aokid/村社祐太朗/七里圭
空間デザイン｜木内俊克＋山川陸

［同時開催］BALパフォーマンス・プログラム
企画｜山崎広太

主催｜ボディ・アーツ・ラボラトリー
助成｜アーツカウンシル東京
（公益財団法人東京都歴史文化財団）
公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
協賛｜OCHABI Institute
御茶の水美術専門学校
御茶の水美術学院
OCHABI artgym
総合建設業 株式会社 松下産業

whenever wherever festival 2018

そかいはしゃくち

時間単位で区画は切断・接合され、機能は順次移動し、導線は書き換えられていく
複数のダンスが一つの景観の中で共存すること

「租界」はいわば“借地”のことである。歴史上最大規模の租界である上海共同租界は、1842年から1943年まで存続した。アヘン戦争の帰結として中国が被った不平等条約に端を発しイギリスに貸すことになったその港町は、“にわかな自治国家”と呼ばれるほどに栄え、また自他の利害をうまく調整しながらひょうひょうと2つの大戦下を生きながらえた。借地のそれのように、人の土地に家を建てるようにして拓かれていった港町には公の法・条約は存在せず、“取り決め”が居合わせた人々によって適宜設えられていった。そして一方でそこはやはり「港」であり、貿易がその経済の礎である以上、関係を切り結んでいく外界の他者にとっての都合の良い帰着地であろうとしなければならなかった。取り決めは独占的であってはならず、それは外界との緩やかなシーム、妥協点でなければならない。

私たちがキュレーターとして今回の会場であるBUoYに持ち込むのは、この「取り決め」のいくつかである。限られた土地を区画し、町に必要な機能を配していくかのように、レセプションとロビー、アクティングスペースを空間に割り振っていく。ただ100年を4日間に詰め込むようにして、時間単位で区画は切断・接合され、機能は順次移動し、導線は書き換えられていく。その目的は遮音がされた芝居小屋を複数建造することではなく、複数のダンスが一つの景観の中で共存することである。租界は借地だが、さらにスケールをすり替えれば「時間貸し」でもある。そこまで卑近に「租界」を捉えることは可能だろうか。あるいは、独立からも侵略からも無縁な自治区を4日間演ずることは可能であろうか。（村社祐太朗）

空間デザインについて

いわゆる「フェス」では、いくつもの公演が立ち上がっては入れ替わってゆく。この「フェス」における空間と時間の公共性そのものがテーマとして浮上し、キュレーターにより提示された「租界」の概念と出会い、文字通り同一の時間と空間を共有して複数のパフォーマンスを走らせる試みのアイデアが生まれた。

ではその空間構成の試みは、即物的な観点からはどう捉えるべきだろうか？

そこで複数の行為の共存や入れ替わりを担保する上で重要だと考えられたことは三つある。一つ目は、空間は仕切りとして十分に利用しやすく、単純で、誰の目にも明らかな構造を持つこと。二つ目は、しかしながら実際にはいつでもルールを破れる自由度を担保していること。三つ目は、それらすべての構成要素が、すんなり受け入れてしまえる日常と同じ凡庸さを携えながら、一方で「どこか居心地が悪い」といった、常にあやふやな疑念や違和感を醸し続ける細部やヒントに満ちていること。それらどの働きも、「租界」のもつ理知や妥協、柔軟さ、刹那、変異し続ける潜在性の培養に欠かせないものであるはずだ。

これらの試みは、日常の公共空間におけるささやかなリスクと報酬のかけ引きを増幅して実践するという意味で、さながら公共空間の「クラブ活動」のようだ。そして公演の4日間が「公共空間クラブ」なら、その地に身体を、目をならす作業はさながら「基礎トレ」と言えるだろうか。ここにその暫定的ガイドラインを書き出し、参加する方々のより踏み込んだ部活動の実践を祈る（別に部活なしでも来ていただきたいが）。ようこそ、「公共空間クラブ」へ。

（木内俊克＋山川陸）

公共空間クラブへのガイドライン
「ここへ来るつもりじゃなかった」

連想と思考　記憶と知能　命とマシーン
その連続に気づいたら　そこはスペイシーな浮遊ゾーン
意味なんかなくていい　他者（ヒト）と他者（ヒト）がそこにいて
だから色（イロ）を感じられる
月夜の折れた葦のように
ただ在ることができる領域（エリア）
「ここへ来るつもりじゃなかった」

理解してるものを認知してなくて
認知してるものを理解してなくて
言葉が光に融け出すとして
イメージが響きになるなら
すべては書かれていて　すべては同時に読まれてる
どこまでも透明な　まっさらな真空溶媒
そう　視界は良好　基礎トレ好き so bad

area	A	B	C	D	E	F
4.26 thu	10:30-11:40 村社祐太朗企画［公演］**新聞家《無床》** 2500円（ドリンク付） 12:30-13:40 村社祐太朗企画［公演］**新聞家《無床》** 2500円（ドリンク付） 19:00-20:30 山崎広太企画［公演］ 石井則仁、三東瑠璃｜**病める舞姫をテキストにした公演** **Bhu Bhu ソロ・パフォーマンス**｜**Morning Breath** 2500円（ドリンク付）			11:00-13:00 aokid 企画 ［公開ミーティング］ **Nice to meet you ! And we...** 橋本匠、ハラサオリ、村上裕 1000円	14:00-15:00 山崎広太企画 ［トーク］ **パブリックスペースに関するトーク** 山崎広太、木内俊克、aokid、他 500円	
4.27 fri	18:00-20:00 aokid 企画［公開ミーティング］ **Nice to meet you ! And we...** 橋本匠、ハラサオリ、村社祐太朗 1000円	15:00-17:00 aokid 企画 ［公開ミーティング］ **Try Dance Meeting** 入場無料		13:00-15:00 福留麻里企画 ［ワークショップ］ **からだの時間のワークショップ** 楠美奈生 2000円	19:00-22:00 （入退室自由） 福留麻里企画 ［展示〜パフォーマンス〜レクチャー］ **he meets no time capsule** **ひ み つ の た い むかぶせる** 松本力×佐々木文美 入場無料	
4.28 sat	15:00-16:30 ［公演］ **ルームシェア** トチアキタイヨウ、いはらみく 1000円 20:00-22:00 aokid 企画［ライブ］ **Nice to meet you ! And we...** 橋本匠、ハラサオリ、村上裕 2000円	14:00-20:00 （入退室自由） 村社祐太朗企画 ［コンペティション］ **演劇のデザイン** 内野儀、村社祐太朗、他 1500円（ドリンク付）		10:00-12:00 山川陸企画 ［トーク］ **漂流教室 ドリフターズの行方** ハラサオリ、冨永美保、山川陸 500円（ドリンク付） 17:00-20:00 福留麻里企画 ［レクチャー］ **ダンス警察桜井圭介の これがダンスだ！** 1500円（ドリンク付）	11:00-15:00 （入退室自由） 福留麻里企画 ［展示〜パフォーマンス〜レクチャー］ **he meets no time capsule** **ひ み つ の た い むかぶせる** 松本力×佐々木文美 入場無料 17:00-20:00 （入退室自由） 福留麻里企画 ［展示〜パフォーマンス〜レクチャー］ **he meets no time capsule** **ひ み つ の た い むかぶせる** 松本力×佐々木文美 入場無料	
4.29 sun	16:00-18:00 aokid 企画［ライブ］ **Nice to meet you ! And we...** 橋本匠、ハラサオリ、村上裕 2000円	13:00-15:00 aokid 企画 ［公開ミーティング］ **Try Dance Meeting** 司会進行：aokid 入場無料			11:00-17:00 （入退室自由） 福留麻里企画 ［展示〜パフォーマンス〜レクチャー］ **he meets no time capsule** **ひ み つ の た い むかぶせる** 松本力×佐々木文美 入場無料	
	18:00-22:00（入退室自由） aokid・福留麻里企画 **［クロージング・パーティー］** 2000円（ドリンク付）					

その他プログラム

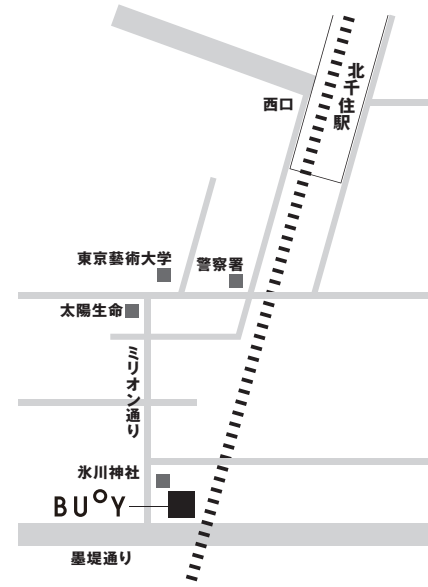
七里圭企画［公開ロケ］**ワンダー・ロケーション**｜山形育弘、菊地敦子、田中真琴、佐藤駿、他
期間中随時、BUoY 内および周辺各所で実施。詳細は、期間中に配布するスケジュール表またはSNSを参照。

※上記の他に、木内俊克企画によるトーク（ゲスト：田村友一郎）を開催予定です。詳細は決定次第ウェブサイトなどで告知します。

access｜会場

北千住BUoY
東京都足立区千住仲町49-11
（墨堤通り側入り口）

［アクセス］
東京メトロ千代田線・日比谷線／
JR常磐線／東武スカイツリーライン
「北千住」駅出口1より徒歩6分、
西口より徒歩8分



ticket｜申込方法

各プログラムのご予約は、［1］予約フォーム、または、［2］E-mail よりお申込みください。
それぞれ当日券を発行予定ですが、立ち見や入場お断りになる場合があるため、事前のご予約をおすすめいたします。

［1］ウェブ予約フォーム｜http://bodyartslabo.com/wwfes2018/festival/ticket
［2］E-mail｜bodyartslab@gmail.com（wwfes 事務局）
※ E-mailの場合、以下の事項をご記入ください。
1. プログラム名｜2. 日時｜3. 人数｜4. 氏名（ふりがな）｜5. 連絡先（E-mail, 電話番号）

［ご予約についての注意点］
・事務局からの返信をもって、ご予約の完了となります。
・料金のお支払いは、当日受付での清算となります。
・料金はプログラムごとに異なります。各詳細情報をご確認ください。
・ワークショップをお申込みの方は、上記1. 〜 5.に加えて活動分野・年齢をご記入ください（予約フォームの場合、「備考」欄にご記入ください）。
・原則として、お申込み後のキャンセルは受け付けておりません。やむをえない事情でキャンセルされる場合は、bodyartslab@gmail.com まで事前のご連絡をお願いいたします。

whenever wherever festival
ダンス・フェスティバルそれ自体が、創作のプロセスでアーティスト同士が結ぶネットワークとして成り立つこと。それがwwfes（ウェン・ウェア・フェスティバル）のコンセプトです。舞台表現に限定されない身体芸術をめぐる環境にはたらきかけ、研究者などを含む多数の実践者との対話・協働の場を開き、その深化を目ざして、2009年より東京で7回開催。創作プロセスや先鋭性を重視したプログラムを特徴とします。また「新人振付家育成のためのスタジオシリーズ」などで開催当初から実施してきたキュレーター制を発展させ、wwfes 2015では、4名のアーティストがキュレーターとなりフェスティバルのプログラムを企画。今回はその2回目となります。wwfesは、アーティスト相互の実験精神を交換することで、新たなコミュニティ形成を試行する場として構想されています。

［過去の招聘アーティスト］
wwfes 2012
トラジャル・ハレル Trajal Harrell
デイヴィッド・ベルグ David Bergé
デイヴィッド・ブリック David Brick
オハッド・フィショフ Ohad Fishof

wwfes 2013　即興の再生
マルテン・シュバンベルグ
Mårten Spångberg
クリスティーヌ・ボナンセア・ソリュ
Christine Bonansea-Saulut
アースラ・イーグリー Ursula Eagly

wwfes 2014　発する身体
クローディア・ラ・ロコ
Claudia La Rocco

wwfes 2015　不可視の身体
ジュリアン・バーネット Julian Barnett

body arts laboratory
ボディ・アーツ・ラボラトリー（BAL）は、アーティストが主導するダンスのオーガニゼーション（機関）として2008年に設立されました（ディレクター：山崎広太）。フェスティバルwwfesを東京で開催（2009-2015 / 2018）する他、リサーチ活動として、批評・インタビュー・海外レポートを主にウェブ上で発信しています。BALは、アーティストの創作に伴うコミュニケーションのサポートになることを目ざします。

問い合わせ bal@bodyartslabo.com

—

whenever wherever festival 2018
そかいはしゃくち

キュレーター｜
福留麻里、aokid、村社祐太朗、七里圭
空間デザイン｜木内俊克＋山川陸

BALパフォーマンス・プログラム
ディレクター｜山崎広太

エディター｜印牧雅子
フライヤーデザイン｜鶴崎いづみ
ウェブデザイン｜中村泰之

web｜
http://bodyartslabo.com/wwfes2018
blog｜
https://wwfes2018.tumblr.com
キュレーターによるインタビューなどを掲載！

福留麻里キュレーション・プログラム

he meets no time capsule
ひ　みつ　の　たいむかぷせる

[展示〜パフォーマンス〜レクチャー]

松本力（アニメーション作家）×佐々木文美（舞台美術家）

4/27［金］19:00−22:00
4/28［土］11:00−15:00 / 17:00−20:00
4/29［日］11:00−17:00
BUoY エリアE
入場無料｜入退室自由

タイムカプセルとは、大切なものを後世のために隠しておくというアイデアだ。中には未来人に届けたいメッセージが入ってる。一方我々はおなかの中で太古の昔からの進化を遂げて生まれてくると本で読んだ。生きてく時に発生する様々な動作は昔から引き継がれた知恵の塊のような気がしてきた。我々はそう言う視点から見るとタイムカプセルであると言っちゃってもいい気もしてきた。そうなんだけど、そうでもないけど、の間だろうけど、そういうふりして遊んだら、きっと未来とのコミュニケーションの仕方も達者になると思う。

楠美奈生｜からだの時間のワークショップ

[he meets no time capsule　ひ　みつ　の　たいむかぷせる 関連イベント]

講師：楠美奈生（ダンサー・ロルファー）

4/27［金］13:00−15:00
BUoY エリアD
2000円

私たちの持っている身体が携える大きな時間のスケールに少しだけ触れようとしてみる。
胎児（には限らず生命）の発達 成長の過程で、感情というものは関係なく、私たちの生きているこの環境には命が生まれ 育ち、維持されて行く働きが昨日も今日も明日も 100年前も 働きかけられているらしい。
生命の1番初めは液体で、海の中にいてまず膜ができたことで個体としての進化が始まったこと 生きるために必要なカルシウムは水の中ではそこら中にあるけど、陸に上がるために骨に蓄えたこと。
例えば、身体の中の硬いものを液体として捉えて動くだけでもタイムスリップなのかもしれない。

ダンス警察桜井圭介のこれがダンスだ！

レクチャー：桜井圭介（ダンス批評家）

4/28［土］17:00−20:00
BUoY エリアD
1500円（ドリンク付）

あれもダンス、これもダンスじゃすまされない。「ダンス」の純度を今一度見つめ直し中のダンス批評家桜井圭介が、ダンス警察としてwwfes 2018に登場。パトロールに出かける前の、指差し確認レクチャーです。

aokid キュレーション・プログラム

Nice to meet you ! And we...

［公開ミーティング / ライブ］

演者：橋本匠（トランスフォーマー）、ハラサオリ（美術家 / ダンサー）、村上裕（アーティスト）

4/26［木］11:00−13:00｜公開ミーティング｜ BUoY エリアD
4/27［金］18:00−20:00｜公開ミーティング｜ BUoY エリアA･B･C
4/28［土］20:00−22:00｜ライブ｜ BUoY エリアA・B・C
4/29［日］16:00−18:00｜ライブ｜ BUoY エリアA・B・C

4/26［木］, 27［金］｜各1000円
4/28［土］, 29［日］｜各2000円

3人のアーティストの空間と時間へ対峙するパフォーマンスはバラバラな方法で行われる。与える印象もバラバラ。
ライブが時間と空間への応答技術であるとして、それぞれの構築する技術が一堂に会しクロッシングし合って出来る建築空間はどんな場所になるか。それを4日間にかけて、分けて、出来る形を楽しんでみたいと思っています。
歌い方のまったく異なる3者の歌の混声に耳を傾けるか、または身体をそわせるようにしてみようか、と思います。
歌が残るのか、それはどんな歌になるのか、歌ではなく詩として残るのか。
ハラサオリのダンスと、村上裕の音楽的なライブと、橋本匠のトランスフォーめいそうが集まる。
そして。

Try Dance Meeting

司会進行：aokid

4/27［金］15:00−17:00
4/29［日］13:00−15:00
BUoY エリアB
入場無料

「今、ダンスで話したいこと。」（仮）と題して、集まった人たちで話せたらと思っています。
※詳細は随時、ウェブサイトで告知します。

七里圭キュレーション・プログラム

ワンダー・ロケーション

台本・出演：山形育弘
振付：神村恵　音楽：田中淳一郎
出演：菊地敦子、田中真琴、佐藤駿、他

4/26［木］−29［日］の期間中随時、BUoY内および周辺各所で実施。詳細は、期間中に配布するスケジュール表またはSNSを参照。

北千住に出現し浸食を始めたシナリオという構造体はあちこち食い破られていた。『ワンダー･ロケーション』では毎日撮影クルーがやって来ては見捨てられたカットが積み上げられ、粉々になった俳優たちの明滅にまばらな拍手がこだまする。どこからともなくスカベンジャーたちが現れてはカットの山に群がり饗宴を開始する。かつて監督が腰掛けていた揺り椅子には雷に撃たれた跡があった。（山形）

村社祐太朗キュレーション・プログラム

コンペティション｜演劇のデザイン

内野儀（表象文化論）、村社祐太朗（新聞家主宰、演劇作家）、他

4/28［土］14:00−20:00（入退室自由）
BUoY エリアB
1500円（ドリンク付）

演劇をデザインするとはどういうことか、あるいは、演劇に引かれたデザインとはどのことを指すのか、といったことを思考するべく、コンペティションを開催します。まず「デザイン」をめぐって、以下のように宣言します。わたしたちの積極的なデザインによって、制作物や技術、そしてシステムが日々生み出され、また作り変えられています。ですがそれと同じくらいか上回るほどに目まぐるしい速さと深さで、デザイナーであるわたしたちの身体や精神、そして文化が、そのたった今手を離れたかに見えた制作物や技術・システムによる積極的なデザインによって、変貌を迫られています。この単純な気づきを、演劇の現場において顕在化させることで何が起きるでしょうか。誰がデザイナーで、誰が制作物なのか。目を瞑らずにこの“目眩”を目撃したいと願っています。そのための作品発表と、議論の機会をここに設えてみます。

URL：http://sinbunka.com/design_competition

新聞家｜無床

作・演出：村社祐太朗
出演：那木慧、吉田舞雪

4/26［木］10:30−11:40 / 12:30−13:40
BUoY エリアA・B・C
各 2500円（ドリンク付）

ある皮膚科の、ベッドのない診察室で起こる喜劇。テキストを他者ととらえ、発話者の思索をパフォーマティブに現前させる新聞家の作品様態が「会話劇」を捉える。

URL：http://sinbunka.com/musyou

木内俊克＋山川陸［空間デザイン］企画プログラム

漂流教室 ドリフターズの行方

トーク：ハラサオリ（美術家/ダンサー）、冨永美保（建築家）、山川陸（建築家）
企画：山川陸

4/28［土］10:00−12:00
BUoY エリアD
500円（ドリンク付）

KAATで公演されたドリフターズサマースクール2011とBUoYでのwwfes 2018を結ぶ線について、当時ワークショップへ参加していた面々で送る公開討論。同時多発や多中心、訓練された身体と素人の身体、対価の支払いが何をスイッチしているか、劇場のみならず都市や公共空間を取り巻く命題を考えるヒントを探しに行く。

※上記の他に、木内俊克企画によるトーク（ゲスト：田村友一郎）を開催予定です。詳細は決定次第ウェブサイトなどで告知します。

BALパフォーマンス・プログラム［企画：山崎広太］

病める舞姫をテキストにした公演

振付・出演：石井則仁（舞踏家/振付家/DEVIATE.CO 芸術監督）、三東瑠璃（ダンサー・振付家）

Bhu Bhu ソロ・パフォーマンス｜Morning Breath

振付・出演：Bhu Bhu（ダンサー・振付家）

4/26［木］19:00−20:30
BUoY 全エリア
2500円（ドリンク付）

病める舞姫をテキストにした公演｜土方巽（1928-86）の著書「病める舞姫」をテキストに、言語感覚・イメージと身体表現との関係、辺境における身体の風景への考察などをそれぞれの解釈で浮かび上がらせる。

Morning Breath｜サンフランシスコにて作品発表を始め、以来、サンパウロ、ベルリン、東京を巡回しながら、実験的なコンテンポラリーダンスに取り組む。フラダンス、ボーギング、料理番組、土方巽、大野一雄、ブラジル系モダニズム、およびミニマリズムから影響を受ける。

ルームシェア

出演：トチアキタイヨウ（ダンサー・俳優・演出家）、いはらみく（ダンサー）

4/28［土］15:00−16:30
BUoY エリアA
1000円

あまり出会うことのない関西と関東のアーティスト同士がルームメイトのように同じ空間をシェアし、自由な発想でパフォーマンスの形態を探る。

パブリックスペースに関するトーク

トーク：山崎広太、木内俊克、aokid、他

4/26［木］14:00−15:00
BUoY エリアE
500円

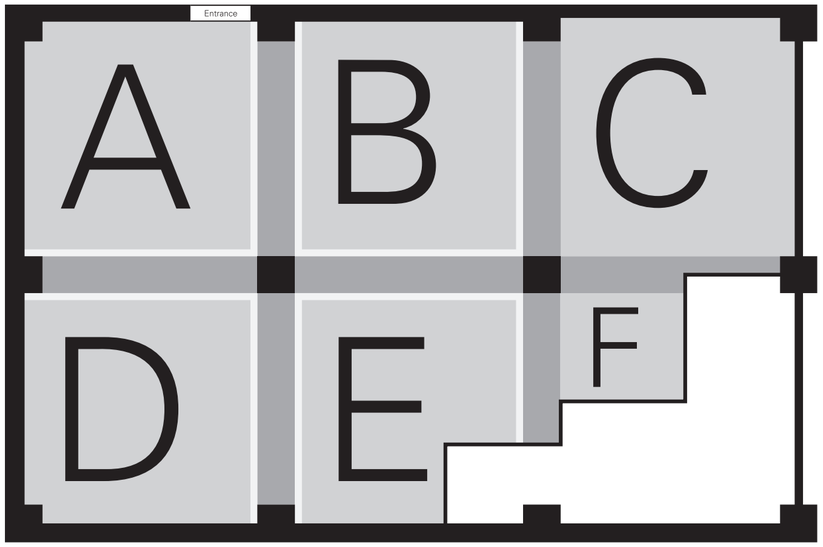
パブリックスペースでのアクティビティの可能性について、建築、ビジュアルアート、ダンスの視点から考察します。ダンスとはいかないまでも、パブリックスペースでそこにいることを意識するだけでも、行為は新たな解放へと導き出されるのではないのかと思っているのです。

クロージング・パーティー

企画：aokid・福留麻里

18:00−22:00（入退室自由）
BUoY 全エリア
2000円（ドリンク付）

フェスティバルの最後にパーティをします。作り込んだ作品でなく、即興公演でもない、他人同士が同じ場に集うゆるやかな時間。ダンサー・アーティスト・批評家・ご近所さん・誰かの家族・子ども・通りすがりの方・パーティーピーポー・引きこもりがちな方などなど、どなたでも大歓迎。
※山崎広太による「ソーシャル･ダンス･ワークショップ」他予定。詳細は、決定次第ウェブサイトで告知します。



profile｜プロフィール

キュレーター

福留麻里｜Mari Fukutome

1979年東京都生まれ。2001年より新鋪美佳と共に身長155cmダンスデュオほうほう堂として活動。独自のダンスの更新を試みる。2014年より個人活動開始。以来、劇場での作品発表、川原、公園、美術館、道など、様々な場所でのパフォーマンスやワークショップ、他分野の作家との共同制作などを継続的に行ない、いくつもの関係性とそのやりとりから生まれる感触や結 びつきや考えや動きを見つめ、紡いでいる。
https://marifukutome.tumblr.com

aokid｜アオキッド

1988年東京生まれ。ブレイクダンスをルーツにパフォーマンスアート、イベント、アートへの関心を持ち制作を始める。上演作品は他ジャンルの作家と作ることが多い。「aokid city」や「どうぶつえん」という企画、パーティーの定期開催を行っている。作風は自分の絵から飛び出したようなディティールがあったり、企画は社会への問題意識に自分なりのテイストで接することを意識的に行う。
http://iamaokid.tumblr.com

村社祐太朗｜Yutaro Murakoso

新聞家主宰。演劇作家。1991年東京生まれ。2014年に作・演出した小作品が3331千代田芸術祭2014パフォーマンス部門で中村蓁賞を受賞。テキストを他者として扱うことで演者に課せられる〈対話〉をパフォーマティブな思索として現前させる独特の作品様態は、演劇批評家の内 野儀に「本来的な意味での演劇」と評された。作・演出した作品が批評誌「ゲンロン」や雑誌「美術手帖」にあって紹介されるなど近年注目を集めている。最近作に『白む』（2017）など。
http://sinbunka.com

七里圭｜Kei Shichiri

1967年生まれ。近年は、映画製作にライブ・パフォーマンスやワーク・イン・プログレスを積極 的に導入する「音から作る映画」シリーズ（2014-）、建築家と共作した短編『DUBHOUSE』（2012）など、実験的な作品作りに取り組んでいる。代表作は、人の姿をほとんど写さず声と 気配で物語をつづる『眠り姫』（2007-2016）。しかし、そもそもは商業映画の現場で約10年間助監督を務めたのちにデビューし、『のんきな姉さん』（2004）、『マリッジリング』（2007）などウェルメイドな劇映画を監督している。他監督へ提供した脚本作もある。PFF'85に大島渚の推薦で入賞した高校時代の8mm映画『時をかける症状』（1984）が最初の作品。

空間デザイン

木内俊克｜Toshikatsu Kiuchi

1978年生まれ。東京大学建築学専攻を修了後、Diller Scofidio + Renfro（2005-2007, New York）、R&Sie（n）（2007-2011, Paris）勤務。2012年木内俊克建築計画事務所設立。建築から都市に至る領域横断的デザインの傍ら、コンピュテーショナルデザイン教育 / 研究に従事。代表作に都市の残余空間をパブリックスペース化した『オブジェクトディスコ』（2016）など。イスラエル・ホロン市開催の Urban Shade Competition（2014）では歩道や広場を横断して設置する巨大なキャノピーによる都市介入で勝利案受賞。

山川陸｜Rick Yamakawa

1990年生まれ。東京藝術大学美術学部建築科卒業、松島潤平建築設計事務所に勤務（2013-15年）。2010年よりグリ設計名義で活動。現在・同大学美術学部教育研究助手。近作に『オブジェクトディスコ』（2016）、『ピン！ひらはらばし』（2016）等。建築がどのように読み取られ受容されるかを関心とし、設計業務の中で可読性の検証を行う。他、NPO法人モクチン企画、NPO法人有馬の村への参画。